

EGファーム株式会社 ～営農型太陽光発電による持続的な農業への挑戦～

● 参入のきっかけ・目的

- エネグローバルHDグループは、太陽光発電の開発事業者として、地球温暖化に向き合うなかで、食を支える農業の持続性についても課題意識を持ち、再生可能エネルギーの普及と持続的な農業の二つの両立を図る取組として営農型太陽光発電による農業参入を進めてきました。
- 2022年に農業法人EGファーム(株)を設立し、太陽光パネル下の農地で営農を開始しました。毎年2～3品目の作物を選定して栽培試験を実施し、作物ごとの適性を把握するなど、温暖化の進行や異常気象下においても安定生産が可能な持続的経営モデルの確立を目指しています。

● 参入地域を選んだきっかけ

- 茨城エリアの営農型下の圃場の中心となる茨城県筑西市に主拠点である筑西営農ベースを設置。また、2025年には埼玉・群馬県エリアの圃場の中心となる太田営農拠点を開設。現在は石川営農拠点(福島県)の開設を準備中。
- 各営農拠点から半径40Km、1時間の移動範囲内に圃場を配置しています。

● 主な販路

- JAや青果市場に出荷のほか、契約栽培、道の駅で販売しています。出荷規格や取引条件などに応じて幅広く販路を選択しています。

● 本業との相乗効果

- 自らが営農型太陽光発電下の農地を活用した持続可能な露地栽培モデルを構築し、複数地域で大規模かつ効率的な経営を展開することで、温暖化の進行に対応した露地栽培の一形態として本取組を広げるとともに、温暖化抑制に資する太陽光発電の開発・普及にも寄与していきます。

営農型太陽光発電下の農地と栽培品目



営農型太陽光発電下での農作業



● 自治体からの支援

- 2025年に埼玉県の「遊休農地整備事業」の交付を受けて、長年放棄されていた約5.5haの農地の再生に取り組んでいます。

● 参入において苦労したこと

- 営農型太陽光発電下での営農は実証事例が少なく、試験栽培を重ねながら適正作物の検証を進めてきました。成果が得られない作物もあり、収益がマイナスとなる場合もありました。短期的な採算にとらわれず、温暖化下でも持続可能な露地栽培の確立を目指し、知見の蓄積に努めていきたいと思っております。

● 参入した結果

- 営農型太陽光発電下での営農を実践した結果、露地圃場との比較を通じて作物ごとの適性や課題を把握と共に、高温や強日射の影響を受けやすい作物では、生育環境の安定に寄与する側面も確認されています。また、遊休農地の再生により、生産が行われていなかった農地から新たな産出を生み出すなど、地域農業の活性化にもつながる取組となっています。

● 今後の展望

- 来年から新たに水稻の栽培を開始する予定です。栽培面積も現在の40haから2027年には100haにまで拡大させ、売上1億円突破を目指しています。
- 今後も経営を発展させることで、営農型太陽光発電を持続的な農業経営モデルとして定着させ、将来的には全国に展開したいと考えています。

● 詳しい情報はこちら

エネグローバル株式会社 <https://www.eneglobal.jp/>

EGファーム株式会社 <https://www.eneglobal.jp/company/eg-farm.php>

★ 概要 ★

法人設立:2022年

栽培作物:じゃがいも、さつまいも、里芋、かぼちゃ、自然薯、生姜、ねぎ、落花生、そば、大豆、麦

従業員:12名

経営面積:約40ha

営農エリア



EGファームの皆さん

